彦根東高校新聞
速報新聞
キマグレ
発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

5

情熱を信じて

高体連を前にした休校に弓道部の三原見貴生先生は「弓道部は道具を多く使う部なので、1週間部活ができないと技にブレが生じてしまう。高体連は休みが明けて8日後。休校中、生徒は素引きをして練習に励むと思う。生徒の弓に対する情熱を信じて試合に臨みたいと思う」と新聞部員に語ってくださった。

また男子バスケットボール部の北林勝利先生は「中体連も中止になってかわいそう。流行性のものなので仕方がないが…」と話して下さった。卓球部の藤井賢治先生は「みんなの青春を賭けた集大成の場なので、思いっきり準備して力を発揮させてあげたい」と大会の行方を気遣われた。

女子バスケットボール部は31日（日）に栗東高と膳所高の勝者との対戦が決まっていた。清水美春先生は「朝起きる時間を変えないように。相手も（同じく休校の）公立校。24時間すべて自分にゆだねられているので、この1週間を勝つために過ごした方が勝つと思って過ごすように」とミーティングで話されたそうだ。

この1週間 勝つために過ごした方が勝つ！

▲誰もいない弓道場

愛知への遠征も中止

野球部ではこの23・24日に愛知県へ遠征に行く予定だった。対戦予定の豊田西高校、愛知成章高校は甲子園出場校でともに応援団賞最優秀賞受賞校。今春の甲子園出場の際には両校の応援のビデオなどを参考にさせてもらったという経緯がある。今井義尚先生は「応援でお世話になった学校なので、お礼も含めて遠征で対戦できることを楽しみにしていたのに残念」と話された。今回の休校にあたっては部員に「リズムを崩さず勉強と体のコンディションを整えよ」と話されたそうだ。

学校があるときと同じ生活を

野球部主将　新谷直弘君

野球部主将の新谷直弘君（3ー3）からこの1週間に向けてのコメントをもらった。

「今回の休みで一番気を付けたいことは生活リズムです。

部活も学校も塾も行けないということは勉強も体力維持、強化もすべて自分でやらないといけないってことだと思います。それってかなり難しいことですよね。

今までの先生が与えた課題をこなすという生活から、すべて自分で考えて行動する生活に変わったわけです。

そういう状況のなかできちんとした生活ができない人＝やられてる人きちんとした生活ができる人＝やってる人だと思います。

僕はこの後者になるためにこの一週間頑張ります。

そのために守っていこうと思っていることが最初に言っていた「生活のリズムを大事にしよう！」ってことです。

リズムは大切です。どんな状況でも学校がある時と同じ生活、もしくはそれ以上の生活をすることがこの一週間を有意義に過ごす方法だと思います。

だから僕は休みの間も朝5時30分に起きて夜10時には寝るという生活を続けようと思います。

この生活をしていれば学校が始まっても慌てることはありません。」

新聞部員も見習おうと思う。